
第 32 回日本医学会総会

特別プログラム & 学術プログラム



特別プログラム

- ◇ 会頭講演 -1-
- ◇ 日本医師会会長講演
- ◇ 日本医学会会長講演
- ◇ 日本歯科医師会会長講演
- ◇ 大阪府歯科医師会会長講演
- ◇ 日本看護協会会長講演
- ◇ 日本病院薬剤師会会長講演
- ◇ 日本薬剤師会会長講演
- ◇ 特別講演（4 企画） -2-
- ◇ 招請講演（5 企画） -3-

学術プログラム

- ◇ 会頭特別企画（9 企画） -4-
 - ◇ 副会頭特別企画（7 企画） -7-
 - ◇ 柱 1 創る：未来医療を創る革新技術とトランスレーショナルサイエンス（11 企画） -9-
 - ◇ 柱 2 活かす：先端医療の実装と医工連携による臨床革新（10 企画）
 - ◇ 柱 3 挑む：がん・免疫・感染症に挑む統合的疾患戦略（13 企画）
 - ◇ 柱 4 護る：ライフコース予防医学とウェルビーイングの創出（15 企画）
 - ◇ 柱 5 支える：慢性疾患・臓器別医療と健康長寿への挑戦（18 企画）
 - ◇ 柱 6 繋げる：持続可能な医療システムと社会実装（13 企画）
 - ◇ 柱 7 深める：医学倫理・社会共創と人生の最終段階の医療（11 企画）
 - ◇ 各学会企画（6 企画） -18-
 - ◇ 医学会総会奨励賞
-

参加登録
受付中！



特別プログラム ※2026年4月1日(水)時点の内容です。今後変更の可能性はあります。

会頭講演

2027年4月23日(金) 11:00-11:30 (第1会場 大阪国際会議場 5F メインホール)
座長 門脇 孝 (日本医学会 会長)
演者 澤 芳樹 (大阪大学 名誉教授、大阪けいさつ病院 総長)

日本医師会会長講演

2027年4月23日(金) 11:30-12:00 (第1会場 大阪国際会議場 5F メインホール)
座長 茂松 茂人 (公益社団法人日本医師会 副会長)
演者 松本 吉郎 (公益社団法人日本医師会 会長)

日本医学会会長講演

日本医学会の目標と課題

2027年4月23日(金) 13:25-13:55 (第1会場 大阪国際会議場 5F メインホール)
座長 矢崎 義雄 (公益財団法人 榊原記念財団 理事長)
演者 門脇 孝 (日本医学会 会長)

日本歯科医師会会長講演

これからの日本歯科医師会が目指すもの～歯科医療が大きく変わった～

2027年4月23日(金) 17:40-18:10 (第1会場 大阪国際会議場 5F メインホール)
座長 山城 隆 (大阪大学大学院歯学研究科 顎顔面口腔矯正学教室)
演者 高橋 英登 (公益社団法人日本歯科医師会 会長)

大阪府歯科医師会会長講演

2027年4月23日(金) 18:10-18:40 (第1会場 大阪国際会議場 5F メインホール)
座長 木野 昌也 (一般社団法人大阪府病院協会 会長)
演者 深田 拓司 (一般社団法人大阪府歯科医師会 会長)

日本看護協会会長講演

2027年4月24日(土) 17:00-17:30 (第1会場 大阪国際会議場 5F メインホール)
座長 加納 康至 (一般社団法人大阪府医師会 会長)
演者 秋山 智弥 (公益社団法人日本看護協会 会長)

日本病院薬剤師会会長講演

次世代医療への貢献－病院薬剤師の職能と責務－

2027年4月24日(土) 18:00-18:30 (第1会場 大阪国際会議場 5F メインホール)
座長 奥田 真弘 (大阪大学医学部附属病院 薬剤部 部長)
演者 武田 泰生 (一般社団法人日本病院薬剤師会 会長)

日本薬剤師会会長講演

これからの薬剤師・薬局

2027年4月24日(土) 17:30-18:00 (第1会場 大阪国際会議場 5F メインホール)
座長 乾 英夫 (一般社団法人大阪府薬剤師会 会長)
演者 岩月 進 (公益社団法人日本薬剤師会 会長)

特別プログラム ※2026年4月1日(水)時点の内容です。今後変更の可能性はあります。

特別講演

SL1 継続が想像を超える創造を生む

2027年4月23日(金) 14:00~14:45 (第1会場 大阪国際会議場 5F メインホール)

座長 竹田 潔 (大阪大学免疫学フロンティア研究センター)

演者 岸本 忠三 (大阪大学 名誉教授)

SL2 iPS細胞研究の現状と医療応用に向けた取り組み

2027年4月23日(金) 14:50-15:35 (第1会場 大阪国際会議場 5F メインホール)

座長 中村 祐輔 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 理事長)

演者 山中 伸弥 (京都大学 iPS細胞研究所 名誉所長・教授/公益財団法人京都大学 iPS細胞研究財団 理事長)

SL3 人間の本质といのちがつながる地球の未来

2027年4月23日(金) 15:40-16:25 (第1会場 大阪国際会議場 5F メインホール)

座長 澤 芳樹 (大阪大学 名誉教授、大阪けいさつ病院 総長)

演者 山極 壽一 (大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 総合地球環境学研究所 所長)

SL4 ゲノム医療

2027年4月24日(土) 10:30-11:15 (第1会場 大阪国際会議場 5F メインホール)

座長 森 正樹 (東海大学医学部教授・学長補佐)

演者 中村 祐輔 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 理事長)

SL5 アバターと未来社会

2027年4月24日(土) 11:20-12:05 (第1会場 大阪国際会議場 5F メインホール)

座長 藤澤 正人 (神戸大学 学長)

演者 石黒 浩 (大阪大学大学院 基礎工学研究科 石黒研究室)

SL6 Coming Soon

SL7 Coming Soon

SL8 テーマ未定

2027年4月24日(土) 15:20-16:05 (第1会場 大阪国際会議場 5F メインホール)

座長 北川 雄光 (慶應義塾大学 副学長・常任理事)

演者 安藤 忠雄 (安藤忠雄建築研究所)

SL9 医学とAI

2027年4月24日(土) 16:10-16:55 (第1会場 大阪国際会議場 5F メインホール)

座長 南學 正臣 (東京大学大学院医学系研究科 腎臓内科学・内分泌病態学)

演者 松尾 豊 (東京大学大学院工学系研究科 人工物工学研究センター/技術経営戦略学専攻)

特別プログラム ※2026年4月1日(水)時点の内容です。今後変更の可能性はあります。

SL10 睡眠の謎に挑む：原理の追求から社会実装まで

2027年4月25日(日) 13:30-14:15 (第1会場 大阪国際会議場 5F メインホール)

座長 坂田 泰史 (大阪大学大学院医学系研究科循環器内科学、大阪大学医学部附属病院 病院長)

演者 柳沢 正史 (筑波大学 国際統合睡眠医科学研究機構 機構長)

SL11 制御性T細胞と新しい免疫医療

2027年4月25日(日) 14:15-15:00 (第1会場 大阪国際会議場 5F メインホール)

座長 熊ノ郷 淳 (大阪大学 総長)

演者 坂口 志文 (大阪大学 免疫学フロンティア研究センター 特任教授)

招請講演

IL1 "自立する離島・僻地医療" 徳洲会の挑戦と試み

2027年4月23日(金) 16:50-17:20 (第12会場 リーガロイヤルホテル大阪 3F ロイヤルホール)

座長 坂田 泰史 (大阪大学大学院医学系研究科循環器内科学、大阪大学医学部附属病院 病院長)

演者 東上 震一 (一般社団法人徳洲会 理事長)

IL2 テーマ未定

2027年4月23日(金) 17:20-17:50 (第12会場 リーガロイヤルホテル大阪 3F ロイヤルホール)

座長 土岐 祐一郎 (大阪大学大学院医学系研究科消化器外科学)

演者 久坂部 羊 (作家)

IL3 Coming Soon

IL4 人生はエピジェネティックだ！ ー環境と経験が生き方を変えていく

2027年4月24日(土) 15:20-15:50 (第13会場 リーガロイヤルホテル大阪 3F 光琳の間1)

座長 岩井 一宏 (京都大学 副学長)

演者 仲野 徹 (大阪大学 名誉教授)

IL5 テーマ未定

2027年4月24日(土) 15:50-16:20 (第13会場 リーガロイヤルホテル大阪 3F 光琳の間1)

座長 石井 優 (大阪大学大学院医学系研究科 研究科長・医学部長／研究科免疫細胞生物学)

演者 吉森 保 (大阪大学大学院 医学系研究科 名誉教授)

学術プログラム（テーマタイトル・主旨） ※2026年4月1日（水）時点の内容です。今後変更の可能性はあります。

会頭特別企画（9企画）

会頭 01 （座談会）医学のレジリエンス ～絆～

2027年4月23日(金) 16:30-17:30 (第1会場 大阪国際会議場 5F メインホール)

モデレーター 澤 芳樹 (大阪大学 名誉教授、大阪けいさつ病院 総長)

モデレーター 北川 雄光 (慶應義塾 副学長・常任理事)

パネリスト 松本 吉郎 (日本医師会 会長)

パネリスト 門脇 孝 (日本医学会 会長)

松本 吉郎 日本医師会長、および、門脇 孝 日本医学会長をパネリストに迎え、澤 芳樹 会頭と北川 雄光 副会頭のモデレーター2名のもと、日本医師会と日本医学会が一丸となって、みらいを切り拓く協働の可能性を探る。

会頭 02 薬事承認にスムーズにいたる研究開発とは：医師が知っておくべきポイント

2027年4月23日(金) 13:25-15:25 (第12会場 リーガロイヤルホテル大阪 3F ロイヤルホール)

座長 花岡 英紀 (千葉大学 医学部附属病院 (副病院長 (臨床研究管理・推進) /臨床試験部長))

座長 宇山 佳明 (独立行政法人医薬品医療機器総合機構 執行役員 (レギュラトリーサイエンス担当))

演者 藤原 康弘 (独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 理事長)

演者 柳本 岳史 (Boston Consulting Group Managing Director & Partner)

演者 布施 紳一郎 (TPG Life Sciences Innovations Partner/Managing Director)

演者 谷口 忠明 (アステラス製薬 Chief Research & Development Officer)

演者 丸山 良亮 (独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 再生医療製品審査部 部長)

演者 浅野 淳一 (独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 スペシャリスト (生物統計担当))

医薬品医療機器総合機構(PMDA) 理事長の藤原康弘先生をお招きし、日本で臨床治験・治験を行う意義を解説いただく。その後、各演者よりドラッグロスの現状、日本・海外におけるベンチャー開発、企業が大学や公的研究機関の基礎研究成果や技術の獲得を判断するポイント、治験開始までに基礎研究で対応すべきこと、臨床試験プロトコル作成について解説する。

会頭 03 （座談会）地球環境と感染症

2027年4月23日(金) 15:40-16:40 (第12会場 リーガロイヤルホテル大阪 3F ロイヤルホール)

モデレーター 磯 博康 (国立健康危機管理研究機構 国際医療協力局 グローバルヘルス政策研究センターセンター長・理事長特任補佐)

モデレーター 大曲 貴夫 (国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター 国際感染症センターセンター長)

パネリスト 忽那 賢志 (大阪大学大学院医学系研究科 感染制御学 教授)

パネリスト 五箇 公一 (国立研究開発法人 国立環境研究所 特別研究員)

忽那賢志先生（大阪大学）、五箇公一先生（国立環境研究所）をパネリストに迎え、磯博康先生（グローバルヘルス政策研究センター）と大曲貴夫先生（国立国際医療センター）のモデレーター2名のもと、コロナパンデミックを乗り越えた「レジリエンス力（リヨク）」と今後の感染症対策などについて議論する。

学術プログラム（テーマタイトル・主旨） ※2026年4月1日（水）時点の内容です。今後変更の可能性はあります。

会頭 04 （座談会）日本の地域医療

2027年4月24日(土) 13:40-15:40 (第12会場 リーガロイヤルホテル大阪 3F ロイヤルホール)

モデレーター 小林 正宜 (葛西医院 理事長)

モデレーター 奥 知久 (医療法人ぼちぼち会 おく内科・在宅クリニック 理事長)

基調講演 鎌田 實 (諏訪中央病院 名誉院長)

パネリスト さだ まさし (シンガー・ソングライター)

パネリスト 守上 佳樹 (KISA2 隊 OYAKATA 地域医療連携推進法人 Just2Ys League 機構長)

はじめに医師・作家である鎌田實先生にご講演をいただく。その後、KISA2 隊とともに、現在の日本の地域社会が抱える医療課題に目を向け、地域・法人・職種・世代を超えて互いに知見を共有、協働する可能性を座談会形式で探る。私たちに何ができるかについても考えたい。

また、本プログラムには、社会のために働く個人・団体や災害への支援活動を行う「公益財団法人 風に立つライオン基金」を設立された、シンガー・ソングライターのさだまさし氏の出演が決定した。ミニコンサートも予定している。

会頭 05 わが国の臓器移植のあり方とみらい

2027年4月24日(土) 15:50-17:50 (第12会場 リーガロイヤルホテル大阪 3F ロイヤルホール)

座長 布田 伸一 (東京女子医科大学 心臓血管外科学分野 教授)

座長 寺岡 慧 (東京女子医科大学 名誉教授)

基調講演 松山 大耕 (臨済宗妙心寺退蔵院 副住職)

演者 江川 裕人 (浜松労災病院 病院長)

演者 小柳 仁 (東京女子医科大学 名誉教授)

日本の臓器移植が抱える課題を共有し、みらいに向けて、解決のために何ができるかを議論する。

また、松山大耕先生（臨済宗妙心寺退蔵院 副住職）をお招きし、「死」とは何なのか・「死」に対する考え方について講演いただく。

会頭 06 外科手術の継承と革新（日本外科学会合同プログラム）

2027年4月24日(土) 16:30-18:30 (第13会場 リーガロイヤルホテル大阪 3F 光琳の間1)

座長 石原 聡一郎 (日本外科学会 理事)

座長 尾藤 祐子 (日本外科学会 理事)

演者 宇山 一郎 (藤田医科大学大学院 医学研究科先端ロボット・内視鏡手術学講座 教授)

演者 小野 稔 (東京大学医学部附属病院 心臓外科)

演者 臼田 実男 (日本医科大学大学院 医学研究科 呼吸器外科学分野 大学院教授)

演者 家入 里志 (鹿児島大学病院 小児外科 教授)

演者 福間 英祐 (亀田総合病院乳腺科 主任部長)

演者 堀内 喜代美 (東京女子医科大学 内分泌外科 准教授)

各サブスペシャリティの「top surgeon」に、先達から継承される手術技術と革新的な技術開発について講演していただく。

学術プログラム（テーマタイトル・主旨） ※2026年4月1日（水）時点の内容です。今後変更の可能性はあります。

会頭 07 （鼎談）医学の歴史探訪

2027年4月25日(日) 10:30-12:00 (第1会場 大阪国際会議場 5F メインホール)

モデレーター 澤 芳樹 (大阪大学 名誉教授、大阪けいさつ病院 総長)

モデレーター 中村 安秀 (公益社団法人日本 WHO 協会 理事長)

基調講演 上村 洋行 (司馬遼太郎記念館 館長)

基調講演 町 泉寿郎 (日本医史学会 理事長)

町千寿郎先生（日本医史学会 理事長）と中村安秀先生（日本 WHO 協会 理事長）を迎え、医学が切り拓いてきた歴史を振り返る。また、町先生には「医学が変えた近代日本」のテーマでご専門である江戸期の漢方医学を含めてお話しいただく。

加えて、上村洋行先生（司馬遼太郎記念館 館長）をお招きし、作家 司馬遼太郎の作品と素顔に迫る。

会頭 08 地域医療の現状と未来：関西公立私立医科大学・医学部連合の取り組み

Coming soon…

日本の社会課題の根底にあるのは少子高齢化であり、特に地域において急激に進行している。そして物理的に分散した地域住民に対しても、確実に医療を提供し、健康を守る体制の構築は日本における最優先の課題の一つである。また一方、医師・看護師・薬剤師・他のメディカルスタッフの地域偏在も、地域における医療提供に影響を落としている。地域における医師確保のための地域枠制度も15年以上を経て、その振り返りも必要である。これらの課題は医療だけでは解決が困難であり、行政や産業界とも連携して取り組むことが必須となる。地域における医療体制の確保は、地方創成の根底を支えることは間違いなく、これらの足元の課題に対してどのような取り組みでこの課題に対応しているのか、また近未来の地域における医療提供体制をどのように構築していくかを議論し、今後の社会インフラの強靱化に資することが本セッションの目的である。

学術プログラム（テーマタイトル・主旨） ※2026年4月1日（水）時点の内容です。今後変更の可能性はあります。

会頭 09 フォーミュラの現状と展望 ～医師と薬剤師で作上げる最適な薬物治療管理～

2027年4月25日(日) 10:15-12:15 (第12会場 リーガロイヤルホテル大阪 3F ロイヤルホール)

- 座長 狭間 研至 (医療法人 嘉健会思温病院 理事長)
座長 今井 博久 (一般社団法人 日本フォーミュラ学会 理事長)
演者 水谷 忠由 (厚生労働省 医政局総務課 課長)
演者 中野 道夫 (一般社団法人 八尾市薬剤師会 会長)
演者 島貫 隆夫 (地域医療連携推進法人 日本海ヘルスネット 代表理事)
特別発言 迫井 正深 (厚生労働省 医務技監)

医療の質と効率の両立が求められるなか、医薬品の最適使用を推進する手段として「フォーミュラ」の整備が注目されており、医師と薬剤師が連携して、地域や施設の特応じた推奨薬を定め、持続可能な薬物治療管理体制を構築する取り組みが各地で進みつつある。

本シンポジウムでは、厚生労働省からの制度的視点、地域薬局・薬剤師会による実践例、さらには医療連携法人による広域的な導入事例を通して、現場に即した具体的な課題と可能性を探る。

また、特別発言として、医務技監の迫井氏を迎え、今後の制度展望についても議論を深める。

副会頭特別企画（7企画）

副会頭 01 大学病院の経営における課題と今後の在り方

2027年4月23日(金) 13:25-15:25 (第2会場 大阪国際会議場 12F 特別会議場)

- 座長 藤澤 正人 (神戸大学 学長)
座長 赤司 浩一 (九州大学 副学長)
演者 永井 良三 (自治医科大学 学長)
演者 大鳥 精司 (千葉大学医学部附属病院 病院長)
演者 相澤 孝夫 (一般社団法人日本病院会 会長)
演者 今泉 和良 (藤田医科大学病院 病院長)

副会頭 02 医学を問い、医療を拓く－研究の歓びと使命

2027年4月23日(金) 15:40-17:40 (第2会場 大阪国際会議場 12F 特別会議場)

- 座長・演者 熊ノ郷 淳 (大阪大学 総長)
座長・演者 岩井 一宏 (京都大学 副学長)
演者 保仙 直毅 (東京大学医科学研究所 腫瘍抑制分野 教授)
演者 山梨 裕司 (東京大学医科学研究所 教授)

学術プログラム（テーマタイトル・主旨） ※2026年4月1日（水）時点の内容です。今後変更の可能性はあります。

副会頭 03 いきいきとした人生 100 年時代を目指す医学・医療の新しいチャレンジ

2027年4月24日(土)8:00~10:00 (第2会場 大阪国際会議場 12F 特別会議場)

- 座長 南學 正臣 (東京大学大学院医学系研究科 教授)
- 座長 北川 雄光 (慶應義塾 副学長・常任理事)
- 演者 森 正樹 (東海大学医学部教授・学長補佐)
- 演者 熊ノ郷 淳 (大阪大学 総長)
- 演者 武富 紹信 (北海道大学大学院消化器外科 I 教授)
- 演者 武田 憲彦 (東京大学大学院医学系研究科 循環器内科 教授)
- 演者 小寺 泰弘 (独立行政法人国立病院機構 名古屋医療センター 院長)
- 演者 松尾 清一 (国立大学法人 東海国立大学機構 機構長)

副会頭 04 次世代を担う医師と医師会の役割について

2027年4月24日(土) 10:10-12:10 (第2会場 大阪国際会議場 12F 特別会議場)

- 座長 加納 康至 (一般社団法人大阪府医師会 会長)
- 座長 鈴木 富雄 (大阪医科薬科大学 総合診療科 教授・診療科長)
- 演者 小林 正宜 (葛西医院 理事長・院長)
- 演者 横倉 義典 (社会医療法人 弘恵会 ヨコクラ病院 院長)
- 演者 山本 浩一 (大阪大学大学院医学系研究科 老年・総合内科学 教授)

副会頭 05 イノベーションと生命倫理(仮題)

2027年4月24日(土) 15:20~17:20 (第2会場 大阪国際会議場 12F 特別会議場)

- 座長 寶金 清博 (北海道大学 総長)
- 座長 富永 悌二 (東北大学 総長)
- 演者 加藤 和人 (大阪大学大学院医学系研究科 医の倫理と公共政策学分野 教授)
- 演者 武藤 香織 (東京大学大学院 新領域創成科学研究科 メディカル情報生命専攻 教授)
- 演者 玉腰 暁子 (北海道大学医学研究院 教授) ※依頼中
- 演者 木村 利人 (早稲田大学 名誉教授) ※依頼中

副会頭 06 2040 年を見据えた医療提供体制について – 病診連携と医師会・医学会の関わりについて

2027年4月25日(日)8:00-10:00 (第2会場 大阪国際会議場 12F 特別会議場)

- 座長 加納 康至 (一般社団法人大阪府医師会 会長)
- 座長 茂松 茂人 (公益社団法人日本医師会 副会長)
- 演者 大里 浩樹 (地方独立行政法人 堺市立病院機構 堺市立総合医療センター 副理事長・院長)
- 演者 松田 晋哉 (福岡国際医療福祉大学 看護学部 教授)
- 演者 迫井 正深 (厚生労働省 医務技監)
- 演者 香取 照幸 (兵庫県立大学大学院 社会科学研究科 経営専門職専攻・厚生労働省「新たな地域医療構想等に関する検討会」委員)

学術プログラム（テーマタイトル・主旨） ※2026年4月1日（水）時点の内容です。今後変更の可能性はあります。

副会頭 07 パラダイムシフトの時代の大学像 - ゲーム・チェンジは可能か？

2027年4月25日(日) 10:15-12:15 (第2会場 大阪国際会議場 12F 特別会議場)

座長・演者 越智 光夫 (広島大学 学長)

座長 松尾 清一 (国立大学法人 東海国立大学機構 機構長)

演者 上山 隆大 (内閣府 本府参与)

演者 渡海 紀三朗 (衆議院議員) ※依頼中

演者 元村 有希子 (毎日新聞社客員編集委員・同志社大学生命医科学部医生命システム学科 特別客員教授)

学術委員会企画（33 企画）・U40 委員会企画（12 企画）・分科会合同シンポジウム企画（46 企画）

柱 1 創る：未来医療を創る革新技术とトランスレーショナルサイエンス（11 セッション）

柱 2 活かす：先端医療の実装と医工連携による臨床革新（10 セッション）

柱 3 挑む：がん・免疫・感染症に挑む統合的疾患戦略（13 セッション）

柱 4 護る：ライフコース予防医学とウェルビーイングの創出（15 セッション）

柱 5 支える：慢性疾患・臓器別医療と健康長寿への挑戦（18 セッション）

柱 6 繋げる：持続可能な医療システムと社会実装（13 セッション）


柱 7 深める：医学倫理・社会共創と人生の最終段階の医療（11 セッション）

柱 1 創る：未来医療を創る革新技术とトランスレーショナルサイエンス

M01 構造生物学から紐解く神経変性疾患の病態機構と治療戦略

M09 ヒト細胞・組織の三次元モデルのこれまでとこれから

M10 バイオデジタルツインがもたらす未来医療

 M20 再生医療のみらいへの挑戦と貢献

再生医療治験の成果とみらいへの挑戦的な課題についてそれぞれの研究者に概説いただく。

M32 mRNA 創薬が拓く新しい医療

U01 イメージングで明らかにするマルチスケールな生命現象と臨床への展開

学術プログラム（テーマタイトル・主旨） ※2026年4月1日（水）時点の内容です。今後変更の可能性はあります。

U02 AIを用いたタンパク質設計や立体構造予測によるアプローチ

近年、人工知能（AI）の進展は、生命科学・医学分野における研究のあり方を大きく変えつつある。特に、タンパク質の設計や立体構造予測において、AIを活用することで、新規創薬や疾患メカニズムの解明に向けた革新的なアプローチが次々と生み出されている。本セッションでは、AIを用いたタンパク質工学の最前線で活躍する研究者を招き、それぞれの研究成果や技術の医療応用についてご講演いただく。医学・薬学・生物学など幅広い分野の参加者に対し、AI技術がもたらす可能性と課題を共有し、今後の発展に向けた議論を深めることを目的とする。

U03 免疫学の未来

免疫学はここ数十年で長足の進歩を遂げた。免疫学の基礎的メカニズムの理解に加え、がん免疫療法やCOVID-19に対するワクチン開発など応用面での発展も著しい。今後も免疫学の更なる発展およびその臨床応用が見込まれるが、既存の免疫学の枠組みでは説明できない現象もまだまだ存在する。免疫学の新たなフロンティアにどのように挑んでいくか、その先にどのような展望が開けるのか、気鋭の免疫学者の先生方に議論頂く

U04 シングルセル解析がもたらす医学の進歩

U05 コンフォーメーション病の新たな展開

J02 病理診断・細胞診断におけるがんゲノム医療

（日本病理学会、日本臨床細胞学会）

柱2 活かす：先端医療の実装と医工連携による臨床革新

M02 人工臓器の現状と未来

M03 ロボット手術の現状と未来

様々な診療科でロボット手術が導入されているが、これにより何が変わったのか、今後どうなっていくのかを横断的に議論する。

M05 ムーンショットプロジェクトが切り開く未来の健康生活

M11 医工・産学連携の最前線

M33 乳癌手術によって失われた乳房の再建 より自然な乳房を目指して


U10 研究成果のアウトリーチを考えよう！

J09 ニューロテック

（日本脳神経外科学会、日本神経学会、日本精神神経学会、日本リハビリテーション医学会）

J13 最新の放射線医学

（日本医学放射線学会、日本磁気共鳴医学会、日本放射線腫瘍学会）

 J46 日本における再生医療、移植医療、人工心臓治療の最前線

（日本再生医療学会、日本人工臓器学会、日本移植学会）


本シンポジウムでは、「日本における再生医療、移植医療、人工心臓治療の最前線」をテーマに、眼科学、再生医療、移植、人工臓器の各分野の専門家が一堂に会し、未来医療の展望を多角的に議論したいと思う。iPS 細胞を用いた新しい疾病治療、臓器移植の最先端技術、人工心臓と補助循環装置の進化など、急速に進化する日本発の先進医療の現状と課題を共有し、医療の未来像を共に描く場とする。医工連携、異分野融合にも言及し、超高齢社会に向けた持続可能な未来医療の姿を展望する。

J47 ニューロリハビリテーション 進歩と将来展望

（日本脳神経外科学会、日本脳神経外科学会、日本リハビリテーション医学会）

柱3 挑む：がん・免疫・感染症に挑む統合的疾患戦略

M06 日本から世界に発信した免疫疾患

 M07 がん免疫療法の基礎と進歩


医学会会員の先生方にごがん免疫の基本を御理解いただくためのレクチャーと最先端の知識の提供を行う。

M12 HPV ワクチンの安全性に関する誤解と事実 ― エビデンスに基づく整理

M16 難治消化器癌に対する根治を目指した治療戦略

M19 国民病としての敗血症を考える

M24 自然免疫受容体シグナルと炎症、疾患

 U06 Post-COVID-19 era の感染症研究・対策

COVID-19 は今や本邦では 5 類感染症となり、人々は以前の生活を取り戻した。しかしながら、COVID-19 が蔓延した際の様々な戦いは過去のことで忘れてしまっているのだろうか？ 次の新興感染症はすぐそこで待ち構えているかもしれない、ここ数年の COVID-19 禍に得た教訓を振り返り、COVID-19 関係に限らず感染症研究をされている主に若手の先生方・企業・政府関係者の COVID-19 パンデミック中の経験、パンデミック後の感染症研究のあり方、姿勢、政策等についてお話いただく。

J03 非結核性抗酸菌症のマネジメント

（日本呼吸器学会、日本結核・非結核性抗酸菌症学会）

学術プログラム（テーマタイトル・主旨） ※2026年4月1日（水）時点の内容です。今後変更の可能性はあります。

J04 感染症が抱える諸問題

（日本化学療法学会、日本感染症学会）

J05 免疫疾患における分子標的療法から細胞療法への新展開

（日本臨床免疫学会、一般社団法人日本癌学会）

J06 がんゲノム医療・研究の現状と近未来

（一般社団法人日本癌治療学会、公益社団法人日本臨床腫瘍学会、一般社団法人日本癌学会）

J12 感染症対策における感染症専門医とプライマリ・ケア医療者の連携による地域医療への貢献

（一般社団法人日本プライマリ・ケア連合学会、一般社団法人日本感染症学会、一般社団法人日本プライマリ・ケア連合学会）

J23 新規抗腫瘍薬による糖代謝異常：分子機序と臨床的課題


（日本糖尿病学会・日本臨床腫瘍学会・日本乳癌学会・日本癌治療学会・日本外科学会・日本臨床外科学会）

柱4 護る：ライフコース予防医学とウェルビーイングの創出

M04 ライフコースを通じた「孤独・孤立」の健康影響

M13 日常の些細な幸せを支える感覚医学（レジリエンスの感覚医学）

M17 脳を知り、守り、治す～システム脳科学の現在地と未来～

 M18 社会的孤立の時代：脳と心のレジリエンスを再考する

本シンポジウムでは、現代社会におけるさまざまな形態の孤立とその心理的及び神経生理学的健康への影響に焦点を当てる。各セッションについては、高齢者の孤立、AYA 世代のひきこもりや自殺傾向、災害後（災害時）の孤立、そして社会的孤立が脳に及ぼす生物学的影響といった四つの主要テーマを扱う予定である。これらのテーマを通じて、社会的孤立の実情と課題を深く理解し、心と脳の健康を支えるレジリエンスの醸成と実践的なケア戦略の開発を目指す。各セッションでは、専門家による研究発表と参加者との対話を通じて、孤立の克服と心理社会的健康の向上に向けた具体的なアプローチが議論されることを期待する。

M21 メンタルヘルス向上のためのレジリエンスを考える

M26 睡眠と生体リズムが切り拓く未来社会の健康医学

M27 運動はなぜ健康にいいのか？

M31 住居の温度・光環境と健康の関連

U07 環境・産業・食品に関連した化学物質が引き起こす生体影響の医学的知見

J01 睡眠健診の推進：国民の安全・安心を衛る睡眠予防医学の将来構想

（日本公衆衛生学会、日本睡眠学会）

近年、国内外で睡眠面からの事故防止、生活習慣病の予防に関する知見が集積してきた。わが国においては、約20年前から順天堂大学の谷川武教授により事業用運転者を対象に睡眠時無呼吸症候群のスクリーニング検査が開始され、国交省による健康起因事故対策の推奨検査の一つとして現在では全国で年間約10万人が受検している。さらに、地域住民を対象とする疫学研究では睡眠時無呼吸症候群は糖尿病や心疾患および脳卒中等の循環器疾患の発症リスクを高めることが約20年間の追跡研究で明らかにされているが、未だに厚労省の施策として睡眠健診の進展はない。一方で、睡眠のメカニズムを世界に先駆けて明らかにし、国際的に極めて評価の高い業績を上げている筑波大学の柳沢正史教授、東京大学の上田泰己教授が、睡眠健診に関する新たな手法の開発に成功し、いずれもPNAS誌にその内容が掲載され、睡眠健診の普及にも精力的に取り組まれていることから、睡眠健診は日本睡眠学会における新たな潮流となりつつある。本シンポジウムでは、過去40数年間に亘り睡眠時無呼吸症候群の臨床・疫学研究で国際的な成果を上げてきた日本大学（元京都大学）の陳和夫教授にもご参加頂き、わが国の予防医学領域において今後ますます重要視される睡眠健診に関して、その現状と課題、さらに将来構想に関して発表、議論して頂く。

J07 脳を護るスポーツ医学 ～スポーツによる脳振盪への対応と予防～

（日本臨床スポーツ医学会 日本脳神経外科学会、日本臨床スポーツ医学会、日本脳神経外科学会）

J20 エビデンスに基づく多科連携による日本の睡眠医療の推進 ～小児から高齢者まで、あらゆるライフステージの睡眠課題に挑む～

（日本睡眠学会、日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会）

J24 健康診断から見た循環器疾患の生涯保健事業の現状と課題

（一般社団法人 日本循環器学会、一般社団法人 日本循環器学会 渉外委員会（国内））

J25 安全に身体活動を行って妊娠期を心身ともに健康に過ごそうー日本産婦人科学会、日本臨床スポーツ医学会の対策

（日本臨床スポーツ医学会、日本産科婦人科学会）

J30 食が支える医学と健康～人と地球～


（日本動脈硬化学会、日本栄養食糧学会、日本糖尿病学会）

「食」は健康の基盤となるもので、疾病の予防・治療や生活支援には不可欠である。本講演では、最新の医学的知見に基づき、食と健康の関係を多面的に全地球的に考察する。

柱5 支える：慢性疾患・臓器別医療と健康長寿への挑戦

M15 小児医療における遺伝子診断・治療の進歩と今後（みらいへの貢献と挑戦）

M23 細胞競合 未病の本質的理解を目指して

 M25 認知症治療の先を見据えて：ポスト認知症時代の科学と医療と社会の新たな挑戦

認知症はどこまで治療可能となるか？認知症の治療法が確立・普及すると、今度はどのような社会的要求が高まるだろうか？認知症が少数派となった世界における、患者やその家族、そして社会全体が直面する新たな課題とは？

本セッションでは、来たるべき「ポスト認知症」時代に、神経科学者や臨床医が、企業や政策立案者などと連携しつつ、新たに現れるであろう課題への科学的アプローチ、患者やその家族に対する治療後のケアや生活の質の向上、社会的支援システムの再構築といった多面的な課題にどのように取り組むべきかをディスカッションする。

J10 運動器エコー診療の最前線 - 多職種・多領域で切り拓く日本の運動器診療の未来 -

(日本整形外科学会、日本整形外科学会)

J11 小児期発症慢性疾患を有する患者の成人移行支援推進のために ～消化器疾患に焦点を当てて～

(日本消化器病学会、日本小児科学会、日本小児外科学会)

J14 がんサバイバーの慢性疼痛とその対応

(一般社団法人日本ペインクリニック学会事務局、特定非営利活動法人 日本緩和医療学会事務局)

J15 肥満症診療 Update：現状と明日への展望


(日本肥満学会、日本内分泌学会、日本糖尿病学会合同企画)

J19 摂食嚥下障害の治療 ～誤嚥性肺炎を予防して安全な食事を目指す～

(日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会)

J21 ライフコース医学と糖代謝研究：発生から老化までを貫く科学的探究

(日本糖尿病学会・日本小児科学会・日本内分泌学会・日本老年医学会)

 J22 ベストウェイトについて考える

(日本糖尿病学会、日本肥満学会、日本整形外科学会、日本産科婦人科学会、日本精神神経学会)

肥満ややせは現代社会における重要な健康課題であり、身体的・精神的健康や予後に影響することから、あらゆる医学領域で共通して考慮すべきテーマとなっている。本セッションでは、「ベストウェイト」という概念を手がかりに、様々なライフステージにおける最適な体重とは何かを、基礎・臨床の両面から多角的に考察し、実臨床や保健医療政策への応用を探る。

J27 大動脈緊急症への挑戦と貢献

(日本血管外科学会、日本心臓血管外科学会、日本胸部外科学会)

J28 下肢閉塞性動脈疾患パンデミックへの挑戦

(日本血管外科学会、日本脈管学会、日本心臓血管外科学会)

J31 周産期の脂質異常症治療を考える

(日本動脈硬化学会、日本産科婦人科学会)

学術プログラム（テーマタイトル・主旨） ※2026年4月1日（水）時点の内容です。今後変更の可能性はあります。

J32 遺伝性脂質異常症の適切な診療にむけた取り組み

（日本動脈硬化学会、日本超音波医学会、日本小児科学会、日本アフェシス学会）

J36 近未来の地域・職域における脂質異常症の予防と管理－保健指導からポリジェニックスコアまで－

（日本動脈硬化学会、日本公衆衛生学会、日本産業衛生学会）

J37 心血管病予防治療の継続性向上と健康寿命延伸

（日本動脈硬化学会、日本循環器病学会、日本高血圧学会、日本糖尿病学会、日本臨床薬理学会）

心血管病の予防には、治療の継続性が重要である。本講演では、服薬アドヒアランスや多職種連携の工夫などから、心血管病予防と健康寿命延伸を実現するためのアプローチを紹介する。

J38 ASCVD 2次予防の脂質管理の在り方

（日本動脈硬化学会、日本循環器学会）

J39 超高齢社会における視覚・聴覚の重要性

（日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会）

柱6 繋げる：持続可能な医療システムと社会実装

M08 世界から見た日本の医療

M22 基礎医学からのトリビュート

M30 医療リアルワールドデータの利活用に向けた基盤整備とその可能性

U08 リソースと財政から考える医療供給の未来

U09 医療現場のサイバーセキュリティ ―医療機関を守るために必要な対策―

U11 Medicine Meets Social Media: 医療者が見極め、発信し、向き合う時代へ


現在、Facebook、X（旧 Twitter）など、さまざまなソーシャルメディア／ソーシャルネットワーキングサービス（SNS）が活用されており、医学分野にも多面的な影響を及ぼしている。本セッションでは、SNSと医学との関係について、様々側面から論じる。第一に、非医療者に対して正確な医療知識を効果的に伝えるために、SNSをいかに活用すべきかを取り上げる。第二に、医師と患者がともに求められる SNS リテラシーや SNS に内在するリスク、特に誤情報の拡散といった課題を取り上げる。第三に、医療系学生や医療系専門職による SNS トラブルの実例と対策、更に、学会や学術集会における効果的な SNS の活用方法についても言及する。正確な知識を届ける力と、リスクを見極める力の双方を持つことが求められる今、医療者・教育者・研究者が SNS とどう向き合うべきかを議論し、実践的なヒントを共有する。

学術プログラム（テーマタイトル・主旨） ※2026年4月1日（水）時点の内容です。今後変更の可能性はあります。

U12 医療者の Well-being とキャリア設計

J08 医学会における男女共同参画の現状とこれから

（日本精神神経学会、日本産科婦人科学会、日本脳神経外科学会、日本小児科学会、日本眼科学会）

 J16 外科医の減少を考える

（日本外科学会、日本消化器外科学会、日本呼吸器外科学会、日本心臓血管外科学会、日本小児外科学会、日本内分泌外科学会、日本乳癌学会）
外科医の減少が叫ばれて久しく、その背景には多くの要因が存在している。外科を志望する若手医師の減少に加え、現場を離れる、あるいは離れざるを得ない中堅以上の外科医の増加も問題の一因である。過重な業務に対して報酬が見合わないといった指摘もあるが、問題は決して単純ではない。本セッションでは、外科領域における 6 つの異なるサブスペシャリティから演者を迎え、それぞれの立場から外科医減少の現状、対策、将来展望について多角的に議論する。これにより、課題解決に向けたヒントや今後の方向性を模索する場としたいと考えている。

J17 献体が育てる医療の未来：社会と共に築く医学教育と高度医療の架け橋

（一般社団法人日本外科学会、一般社団法人日本外科学会、一般社団法人日本解剖学会）

J18 これからの保険診療の在り方ー少子高齢化社会に向けてー

（日本内科学会、日本外科学会、日本食堂学会、日本公衆衛生学会）

J29 循環器医の魅力とこれからの働き方

（一般社団法人 日本循環器学会、一般社団法人 日本循環器学会 渉外委員会（国内））

J45 高度専門医療技術に対するインセンティブを考える

（日本内視鏡外科学会）

柱 7 深める：医学倫理・社会共創と人生の最終段階の医療

M14 「患者・市民参画」の実践とその意義

 M28 マスギャザリングにおける感染症危機管理の在り方：2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）から学んだもの

2025年に開催された日本国際博覧会（略称：大阪・関西万博）は、数か月にわたる会期中に世界中から多くの人々が集まる一大イベントとなった。このような大規模な集まり、すなわちマスギャザリングにおいては、感染症のリスクが高まるのが懸念されるため、準備段階や会期中において、これまでの知見や技術を最大限に活用した取り組みが行われた。本シンポジウムでは、ポストコロナ時代では国内最大級のマスギャザリングとなった大阪・関西万博における感染症対策を振り返り、現代における感染症危機管理の実際を総括する。

M29 社会に必要とされる法医学の在り方とは 死因究明から個人識別まで

学術プログラム（テーマタイトル・主旨） ※2026年4月1日（水）時点の内容です。今後変更の可能性はあります。

J26 生まれてくる子どものための医療に関わる生命倫理について審議・監理・運営する、公的なサポートを受けアカデミアと社会が共同して設立するプラットフォーム設置について

（公益社団法人 日本産科婦人科学会、公益社団法人 日本産科婦人科学会）

J33 拡大する遺伝学的検査のピットフォール

（日本動脈硬化学会）

J34 無痛分娩をめぐる学術的・社会的課題の解決に向けて

（公益社団法人日本麻酔科学会、公益社団法人日本麻酔科学会）

 J40 持続可能なエンドオブライフケアを支える連携と革新

（日本プライマリ・ケア連合学会、日本緩和医療学会）

未曾有の高齢化・多死時代を迎えたわが国では、エンドオブライフケアの重要性がかつてなく高まっている。死因として悪性腫瘍が依然として最多であるものの、心疾患や老衰など、非がんによる死も増加し、緩和ケアの対象は全ての人に広がっている。こうした中で、ケアの質を高めるためには、患者の意思を尊重した、継続的なケアを実現することが必要不可欠であり、プライマリ・ケア医と、緩和医療専門家が協働できる持続可能な体制構築並びに人材育成が急務である。また、限られた医療資源の中で質の高いケアを広く提供するには、多職種連携やタスクシフティング、遠隔医療・AI 技術の活用が不可欠である。本企画では、これらの視点から、エンドオブライフケア体制の現状と課題を多角的に検討し、今後のあり方について議論を深める。

J41 「救急・集中治療における終末期医療に関するガイドライン」改訂

（一般社団法人日本集中治療医学会、一般社団法人日本救急医学会、一般社団法人日本集中治療医学会（事務局））

J42 患者・家族の意思に沿った臓器提供体制に向けて：移植チームを含む医療現場の負担軽減も考慮したサステナブルな新たなステップへ

（一般社団法人日本集中治療医学会、一般社団法人日本救急医学会、一般社団法人日本集中治療医学会（事務局））

J43 災害医療におけるトリアージと救護者保護の法的・倫理的課題

～石巻赤十字病院トリアージ訴訟、二つの合同委員会、厚生労働科学研究の議論経過を踏まえて～

（一般社団法人日本救急医学会、一般社団法人日本災害医学会、一般社団法人日本救急医学会）

J44 ヘルスケアアートの可能性

（一般社団法人日本救急医学会、アートミーツケア学会、一般社団法人日本救急医学会）

学術プログラム（テーマタイトル・主旨） ※2026年4月1日（水）時点の内容です。今後変更の可能性はあります。

日本歯科医師会企画（2企画）

- ◆ 歯科から発信！『口は命の入り口 心の出口』
- ◆ デジタル機器の活用で変革する歯科医療

日本薬剤師会企画

- ◆ 薬局薬剤師と研究エビデンス：地域医療への挑戦と貢献

日本病院薬剤師会企画

- ◆ 病院薬剤師が担う医療・医薬品安全管理の実践とエビデンス構築

日本看護協会企画（2企画）

- ◆ Nursing DX が拓くケアの未来
- ◆ 健康危機（Health Crisis）に強い社会を創る – 未知の脅威に立ち向かう看護の機動力 –

日本医学会総会奨励賞

【目的】 医学上、優れた業績を上げた若手研究者を表彰し、今後の医学会を活性化するため

【要項】 日本医学会加盟の分科会もしくは日本医師会から各々1～2名の候補者をご推薦いただき、基礎系、社会医学系、内科系、外科系の4領域に分類し（分類は自己申告による）、審査員による事前書類選考の上、各領域から5名程度の奨励賞受賞者を選出する。奨励賞受賞者には、本総会期間中に実施する受賞講演にて研究内容をご発表いただき、審査の上、各領域から1名の「最優秀奨励賞」を決定する。最優秀奨励賞受賞者の発表および授賞式は、2027年4月25日（日）に行う。

【応募条件】

- 日本医学会分科会もしくは日本医師会に所属している者（医師に限定しない）
- 2027年4月1日時点において40歳以下とする
- 2023年以降の発表論文（主に国内で行われた研究）を対象とする
- 本総会要旨集に受賞内容に関連した抄録の掲載が可能な者
- 受賞講演での発表が可能で、かつ2027年4月25日（日）の授賞式に出席が可能な者
- 同一個人が推薦を受けられる学会は1つとする（2つ以上の学会からの推薦は認めない）

推薦申込受付期間：2026年5月1日（金）～2026年9月30日（水）（必着）

推薦お申込みはこちらから →

